



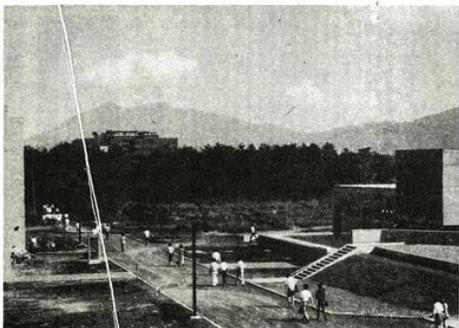
筑波大学新聞創刊50周年について

筑波大学新聞編集代表、サイエンスコミュニケーター
筑波大学広報局 教授 鴨志田 公男



世界の潮流に息づく

開学一周年を迎えて学長・三輪知雄



あらゆる方面に
開かれた大学をめざす

筑波大学新聞

創刊号
発行所
筑波大学 環状
郵便局付本学舎
〒L 026
(07) 451(代表)

発行日
筑波大学新聞
編集委員会
鈴木博雄
月刊

- ・ 創刊 1974年10月26日
- ・ 最新号 2024年10月2日 (第384号)

【現在の体制】

- ・ 発行回数 年5回
- ・ 発行部数 約2万1000部 (春と秋の発行号は増刷)
- ・ 編集部員 25人 (編集長1人、副編集長2人、男13人、女12人) 編集代表 (顧問) 1人。
- ・ 配布形態 学内及びつくば市役所やつくば市内の公共機関、ホテルなどで無料配布。PDF版もウェブで公開中。



創刊の辞 鈴木博雄

大学文化の創造

〜その担い手として〜

大学文化の創造とは、単に学問の探求や知識の伝達にとどまらず、社会と密着した実践的な活動を通じて、学生一人ひとりの個性を伸ばし、社会に貢献できる人材を育てることにある。本紙は、その一環として、学生と教職員が共に力を合わせて創り出すべきものである。

既成の概念から脱皮を

大学は、常に時代の変化に対応し、新しい価値を生み出す場である。過去の枠組みにとらわれず、柔軟な姿勢で挑戦し続けることが、大学の使命である。本紙は、その挑戦の証として、読者の皆様と共に歩んでいく。

筑波大学サークル紹介

サークル名	所属	活動内容
筑波大学新聞	学内	大学文化の創造
...



過去紙 (2001年4月以降) は
こちらからご覧いただけます。
<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/>

第384号 2024年10月2日(水)発行

- 1面 マレーシア校開校 日本型高等教育の海外展開
- 2面 子育てと教育 市民が議論
- 3面 「どうぶつとみんなのいえ」開園
- 10面 剣道 松崎団体世界一 個人2位
- 11面 卓球 初のインカレ団体優勝
- 12面 スタバで活躍 聴覚障害の渡邊さん
- 5面 4年に1度の特別な舞台 パリ五輪・パラリンピック
- 6・7・8・9面 本紙創刊50周年特集

筑波大学新聞 新人記者募集中!

私の一冊3面 寺内大左准教授(環境人類学) 卒業生からの手紙9面 本徳亜矢子さん、アクセンチュア セールスマネジング・ディレクター スポーツの顔11面 ハンド・紺谷紗紗(体専2年)

筑波大学新聞

筑波大生・教職員の手が届きます
広告募集中

お問い合わせ(筑波大学新聞編集部)
TEL:029-853-6699
E-MAIL: shinbum@un.tsukuba.ac.jp



筑波大学新聞綱領（1975年6月20日決定）

- 一、新大学にふさわしい学風の高揚と高い大学文化の創造に貢献することを目的とする。
- 一、言論の自由を守り政治的、思想的に中正公明の立場を堅持し、全大学人の立場に立って真実を追求しこれを報道する。
- 一、大学の教員、職員、学生が参加するコミュニケーションの場であるとともに、広く大学と社会との交流の場とすることを旨とする。

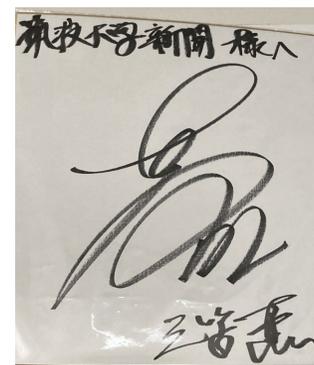
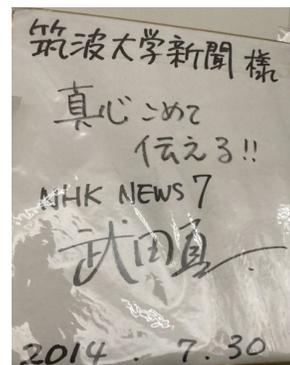
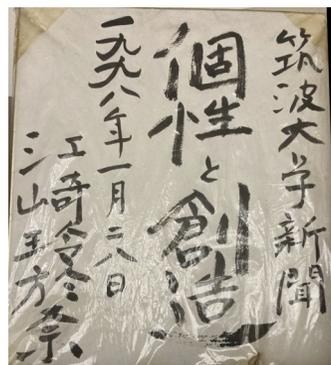
筑波大学新聞編集委員会（2012年2月発足）

- (1) 大学新聞の紙面の編集及び発行に関すること。
- (2) 大学新聞のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による配信及び運用に関すること。
- (3) 大学新聞への広告掲載に関すること。
- (4) 大学新聞への意見、苦情等に関すること。
- (5) その他大学新聞の編集及び発行に必要な事項

近年の受賞歴

- ・2015年 第5回大学新聞コンテスト（主催：関東学生新聞連盟など、特別後援：朝日新聞社など）で最優秀の「朝日新聞社賞」を受賞
 - = 「大学周辺が暗く、危ない」との編集部員の指摘から「つくばに街灯を」とキャンペーンを展開。市役所も動いて大学周辺への街灯設置が一部実現した。つくば中央署から感謝状も。
- ・2019年 第7回大学新聞コンテストで「朝日新聞社賞」と「記事賞」「連載賞」を受賞
 - = 記事賞は「大学生の薬物乱用に関する特集記事」（第350号）で受賞。若者や芸能人などが大麻や覚せい剤などの薬物を乱用する事件が相次いで発覚したことを受け、大学生など若者の薬物乱用の現状や乱用防止の取り組み、乱用のきっかけなどを探った。
 - = 連載賞は「Think LGBT+」で受賞した。
- ・2021年 大学新聞コンテスト2021（朝日新聞社主催）で「優秀賞」（最高評価）を受賞
 - = その時々の特ピックについて学生の声を紹介する「反射鏡」の性別表記の在り方を巡り、性的少数者やジェンダー問題の研究者、全国紙記者などに幅広く取材し、編集部で議論した経緯をまとめた特集記事が評価された（第365号掲載「本紙コーナー『反射鏡』の性別表記を考える」）。

※地域紙の側面も持つ。編集部員の活動や編集部員がメディアに取り上げられたことも。



つくばマップでたどる学生生活の変遷 筑波大生支えた店主ら 大いに語る

座談会参加者

●飲食・喫茶 CLARET(つくば天久保) 宮下友邦さん・宮下裕子さん
1978年創業。店舗は平塚通り沿い。学生の日常生活に耳を傾け、親身に対応する姿勢から、2人を「つくばの顔」と呼ぶ卒業生も。

●自転車店 井上サイクル(明) 井上康男さん
1979年創業。CLARETとはほぼ1棟を挟んでお隣同士。康男さんは店長を長男に譲ったが、筑波大生の自転車生活を今も変え続けています。

●深層リサイクルショップ・古書館MPH(明) 松本美砂さん・田中みどりさん、田中英樹さん
田中みどりさんが1988年創業。店舗は天久保大学通り商店街。現店長は松本さん(平成11年度芸術専門学群卒)で、アルバイトとして学生時代から店舗に出ていた。美樹さん(昭和54年度環境科学専修)はみどりさんの夫。

●予野医歯さん(平成3年度医学専門学群卒)
学生時代からCLARETの常連。動物検疫専門クリニック(ホームファンクエリタ)の社長。雑誌にドキュメントされた「着払いの着者」や「70歳からの正しいお食事」など、今も発信力がある。平成27年度システム情報工学研究科コンピュータインテンス専攻修了。

●筑波大学新報編集長
●藤野一樹さん(平成26年度社会学専修)
筑波大学新聞編集長

卒業生と今もつながる

「つくばマップ」は、筑波大学新聞の50周年記念企画として、学生生活の変遷をたどる。つくばマップは、学生生活を支えた店主らと語り、学生生活の変遷をたどる。つくばマップは、学生生活を支えた店主らと語り、学生生活の変遷をたどる。

「もっと失敗してほしい」

「重食」食べ歩いた

スマホが変えた学生生活

広告欄

掲載のお問い合わせは
shinbun@un.tsukuba.ac.jp
までお願いします。

「つくばマップ」42年の歴史 キャンパスの「今」を記録し続ける

「つくばマップ」は、筑波大学新聞の50周年記念企画として、学生生活の変遷をたどる。つくばマップは、学生生活を支えた店主らと語り、学生生活の変遷をたどる。

学生と街の出会い演出:マップの変遷を紹介

手書きで書かれた1989年(左)のマップ。建物・緑地が白紙で、制作者の名前が手書きで記されている。写真も手書きで貼られている。最新のマップ(右)は、デジタル化された。最新のマップ(右)は、デジタル化された。最新のマップ(右)は、デジタル化された。

1989年に掲載のマップ

23 2000 89 81 1973
マップ(左下) マップ(右下) マップ(左上) 筑波大開学50周年記念

2023年に掲載のマップ

- 飲食店
- スーパー
- 不動産
- 服飾・箱
- 病院・美
- ホテル

2000年に掲載のマップ

みれにあむ・つくばMAP

筑波大学新聞 創刊50周年記念 つくばマップと学生生活の変遷を追う

筑波大学中央図書館
2Fギャラリーゾーン
(入口ゲートをくぐり右手側)

10/25
11/4

つくばマップは筑波大学新聞の名物企画で、毎春の新生歓迎号で大学の主要施設や周辺の飲食店を紹介してきました。創刊初期の1981年から、毎年更新されています。各年のマップを見れば、建物や飲食店の栄枯盛衰をたどれ、学生生活の変遷も浮かんでくることでしょう。本展を通じ、筑波キャンパス周辺の時間旅行をお楽しみください。

主催 筑波大学新聞編集部 shinbun@un.tsukuba.ac.jp



過去紙(2001年4月以降)はこちらからご覧いただけます。
<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/>

